

みやざき

ほん びより 「本」日和

私たちの郷土“宮崎”に縁がある図書館資料をご紹介します。

特集 Special feature

西洋美術を広め、時代に屈することなく
生き抜いた画家の人生をあなたも覗いて
みませんか？

宮崎県出身画家

しおつき どうほ
塩月 桃甫

『塩月桃甫展』



塩月桃甫／〔画〕
宮崎県立美術館／編
上田雄二／編
宮崎県立美術館 2001
2階郷土コーナー R723.1／シ

激動の時代を駆け抜けた画家の 生きた証とその記録

2001(平成13)年に宮崎県立美術館
にて開催された塩月桃甫展の図録。
桃甫の描いた作品だけではなく、台
湾日本統治時代の貴重な資料も多数
収録されています。

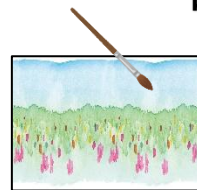
近代美術の発展に尽力した 画家たちの軌跡

美術教師として「赴任」という形で台湾に
降り立った桃甫。なぜ彼が台湾に惹かれた
のか。一人の教師が台湾美術業界で影響
力を持ちその後美術展を開催するまでの
日々が垣間見える1冊です。

p58-p67 他に記載有。

『語られなかった

日本人画家たちの真実』



森美根子／著
振学出版 2018
2階郷土コーナー 702.2／モ

『薔薇の時代』



大西雄二／著
鉦脈社 2011
2階郷土コーナー 702.8／オ

斯くして「文学青年」と 「画家」は出会った。

力強く、特徴的な画風で人々を魅
了した桃甫。彼が歩んできた人生とは
どのようなものだったのか。作家中村
地平とどのような親交があったのか。
桃甫の素顔に迫る1冊です。

p43-p62 他に記載有。

他多数 and more...

塩月桃甫 ～しおつきとうほ～

- 1886年(明治19年) 2月 宮崎県児湯郡三財村(現:西都市)に生まれる。
本名は永野善吉。
- 1912年(大正元年) 東京美術学校(現:東京藝術大学)を卒業。
- 1915年(大正4年) 愛媛師範学校に勤務。本格的な画業に取り組む。
- 1916年(大正5年) 第10回文展(文部省美術展覧会)に初入選。
- 1921年(大正10年) 台北第一中学校に赴任するため、台湾に渡る。
以来、終戦まで一度も帰国しなかった。
- 1927年(昭和2年) 台湾美術展覧会を創設し、審査員となる。
当時日本画壇の新進作家であった藤島武二、梅原龍三郎
などを審査員として招き、台湾の美術振興の基礎を築いた。
- 1946年(昭和21年) 台湾から宮崎に引き揚げる。ひたすら画業に取り組む。
- 1951年(昭和26年) 宮崎大学の講師となる。第12回西日本文化賞受賞。
- 1953年(昭和28年) 第3回宮崎県文化賞受賞。
- 1954年(昭和29年) 1月 心臓弁膜症のため、享年67歳で死去。



宮崎市立図書館

「塩月桃甫 ドキュメンタリー映画上映会」

こまつたかひで
監督 小松孝英 氏

○ 日時 : 8月31日(日) 10:00～ 小松孝英 監督挨拶(予定)

○ 定員 : 100名

※ 7月2日(水)～申込み受付開始。

詳細は、館内ポスター、またはチラシをご確認ください。